

プロジェクト
を支援!!



割り勘で
夢を
かなえよう!

事業指定助成プログラム

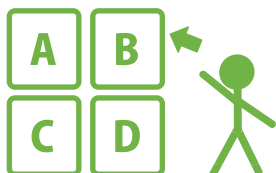
第14期

寄付募集期間

2019年12月16日(月)～2020年2月28日(金)

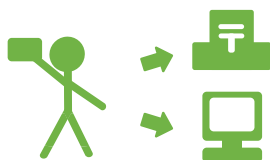
現金・郵便振替での受付は2/24(月)まで
2/25(火)～2/28(金)はクレジット決済のみ

①



このカタログの中から応援したい取り組みを選んでください。
※今回は1事業です。

②



同封の郵便振替用紙でゆうちょ銀行にて寄付をお願いします。
インターネットからも可能です。

③



賛同者から集まった寄付により助成を行い取り組みを実行します。実施後は成果を報告します。



公益財団法人

みんなでつくる財団おかやま

OKAYAMA Share Foundation

●「割り勘」とは？

事業指定助成プログラム、通称「割り勘」とは、寄付を原資とした助成事業です。NPO・市民団体等が取り組む事業内容を社会に発信し、事業への賛同者を募ることで、「寄付により資金集めを支援する地域版クラウドファンディング」です。



● ご寄付の方法

クレジット決済

モーションギャラリーのウェブサイト内からクレジット決済にて寄付をすることができます。

<https://motion-gallery.net/curators/mintuku>

モーションギャラリー みんつく 検索

郵便振替

本カタログに挟み込んでいるものをご使用いただくか、事務局及び申請団体へ連絡いただき振替用紙を受け取ってください。

現金

説明会の会場やみんつく財団事務所で受付しております。事務局までお問い合わせください。

● ご寄付をいただいた後の流れ

- 1) ご寄付をいただきましたら、入金確認後、電子メールにてお礼と受付確認の連絡をさせていただきます。
- 2) 募集期間終了後、助成金額が確定（1カ月程度見込み）したのち、領収書及び助成結果通知を送らせていただきます。
※領収書は、未発行の場合のみ発送させていただきます。
※モーションギャラリー経由（クレジット）の場合は領収書は発行されません。
- 3) 助成時に、各団体へ寄付者名簿をお渡しし、事業実施後、事業報告が各団体より行われます。みんなでつくる財団おかやまのウェブサイトでも事業結果をご報告いたします。

Q. 目標金額に達できなかった場合はどうなりますか？

集まった金額で助成（資金提供）を行います（当法人の運営経費5%＋システム利用料を差し引いた額）。提案事業の目的に沿ったものを、事業規模の縮小もしくは他の資金を充当することにより実施できるものを選定しております。詳しくはウェブサイトの募集要項をご覧ください。

Q. 逆に、期間内に目標金額を超えたらどうなりますか？

目標額を超えて集まった金額も含めて助成し、提案事業の発展に活用していただきます。

Q. 目標金額はどのようにして決まっていますか？

事業提案者の申請額に、当法人の運営手数料（助成額の5%＋システム利用時はシステム利用料）を加えたものになっています。



みんなの何とかしたいをカタチにする仕組み。



みんなでつくる財団おかやま、通称「みんつく」は、530名以上の方からの寄付4,133千円をもとに設立した「みんなの何とかしたいをカタチにする」市民コミュニティ財団（公益財団法人）です。「つなぐ、つたえる、シェアをする」をキーワードに、広く多くの人に知ってもらいながら資金を集める地域版クラウドファンディング「割り勘」、個人でも少額から基金を設置できる「冠基金」などの仕組みを提供しています。ヒト・モノ・カネ・情報の資源循環を通じて、社会課題の解決を進め「安心で持続可能な地域社会の実現」を目指しています。

公益財団法人

みんなでつくる財団おかやま

☎ 086-239-0329

✉ info@mintuku.jp

🌐 www.mintuku.jp

みんつく財団 検索

岡山市北区奉還町三丁目15-8奉還町第一ビル第11号
寄付の相談や、講演依頼も気軽にご連絡ください



認定NPO法人 ペアレント・サポート

すてっぷ

BOOK PROJECT

障がい児の保護者支援 書籍出版プロジェクト

目標 **1,000,000 円**

ひとりぼっちで
悩む人をなくしたい。
倉敷発、
保護者支援の書籍を全国へ。



当事者として強く感じた、障がいのある子の子育ての難しさとサポートの必要性。

私たちが考える保護者支援のマインド・実践方法を広く多くの方に伝える書籍を出版したい。

発達障がいと言われる子どもの数が爆発的に増加し、子育てに悩む親が増えている。しかし、子育てへのサポートは、まったく足りていない。

メディアでも取り上げられる回数が増えた「発達障がい」は、近年、その人数が爆発的に増加していると言われています。岡山県もその例にみれず、小学校の特別支援学級在籍率（全児童生徒に対して支援学級に在籍する児童生徒の割合）が、2016年度には4.35%と全国でトップ（全国平均2.39%）になり、支援学級の爆発的な増加が教育の質に悪影響を及ぼす事態となっています。支援学級の急増の主要因は発達障がい児の増加ですが、それは同時に、その育児に悩む親が激増していることも意味しています。

私たちは、倉敷市で障がい児の保護者の支援をする認定NPO法人です。私たち自身が障がい者の親であり、自分たちの悩み多き子育ての実感をもとに、同じ立場の人たちを支援したいと考えて、現在まで7年間、保護者支援の活動をしてきました。私たちは、近年これほどまでに「障がい児」とされる子どもが増えているにも関わらず、その親たちのサポートがほとんどなされていないことに長年危機感を抱いてきました。

今、子どもたちは、10人に2～3人くらいの勢いで「発達障がいかもしれない」と指摘されています。その親たちが、そんな指摘を受けてどれほどのショックを受けるか、障がいの受け止めにはどのようなサポートが必要なのか？親にとって「子どもの障がい」は、青天の霹靂のような出来事であり、その受け止めには長い長い時間を要します。受け止めて行く過程には様々な心理的な葛藤が生じ、育児は出口の見えないトンネルとなって親たちを深く悩ませます。このようなことに、社会はこれまで、ほとんど注目せず、関心も払ってきませんでした。

しかし、子どもは、一人で生きているわけではありません。ほとんどの場合、その一番近くに、親がいます。そして子どもは、写し鏡のように、親の状況に影響されます。親が心配に顔を曇らせていては、子どももまた、不安定になってしまいます。そのことを私たちは、自らの子育てから痛いほど学びました。だから、私たちは、障がいのある子どもたちが幸せに健やかに育っていくためにも、まずその親に元気になってもらうこと、親を支援することが、何より大事だと考えているのです。

私たちが運営する障がい児の保護者の居場所「うさぎカフェ」のノウハウを広めることで、各地に保護者の居場所ができて欲しい。

私たちは2016年より、全国でも珍しい、「障がい児の保護者の居場所カフェ」を運営しています。毎週火曜・木曜に開くそのカフェの名は、「うさぎカフェ」。ここには年間延べ1200人超の保護者が訪れ、共に手作りのランチやスイーツを食べながら、スタッフ相手に悩みを話し、親同士で交流しています。多くの方が途切れなく「うさぎカフェ」に訪れてくるというのは、このような場が社会に求められているのだと強く感じています。

しかし一方で、「保護者の居場所」が「うさぎカフェ」一択である状態は、良くないと考えています。訪れる保護者が、自分に合った、行きやすい居場所を選択できるようになって欲しい。いろんな地域にいろんな形の「居場所」があって欲しい。困難の多い子育てであっても、話を聞いてくれる相手と、気持ちを分かち合える仲間が存在があれば、きっと乗り越えられます。





「障がい児の保護者の居場所カフェ」の様子



プロジェクトメンバー（認定NPO法人ベアレント・サポートすてっぷ）

障がい児の保護者の支援について書いた書籍の出版費用を募り、2020年3月に出版します。

「障がい児の保護者支援の必要性」は、まだ社会的に顕在化されていない問題です。そのため、これまで何度、保護者支援の必要性をお話しても、子育てハンドブック（一般書店では取り扱いなし）を作って何冊も販売しても、なかなか地域社会に定着・浸透していきませんでした。そこで、書店に流通させられる一般書籍を出版することにより、これまでよりも広くたくさんの方に保護者の支援について知り、考えてもらえるようにしたいと考えました。この本は、次の6章で構成されています。

第1章 団体設立から居場所にたどり着くまで 第2章 居場所って何？居場所の作り方 第3章 私たちが会ってきたお母さんたちのこと 第4章 私たちの考える保護者支援 第5章 団体づくりと存続と発展、そしてお金のこと 第6章 発災と、被災地復興支援から見てきたもの

この本の読み手として私たちが考えているのは、まず、障がい児の保護者の皆さんです。活動のバックグラウンドとなる著者自身の子育て経験や、「うさぎカフェ」を訪れるお母さんたちのエピソードをご紹介することにより、困難な子育てに日々向き合う人たちへの尊敬の念とエールの気持ちを伝えたいと思います。また、この本では「なぜ障がい児の保護者に支援が必要なのか」を細やかに解説しているため、支援者や福祉を学ぶ学生、その先生がたにも、大いに参考になるはずです。

この本では法人の活動の成り立ちや、団体づくりのコツ、居場所づくりのノウハウや、団体を継続するための資金調達の方法など、実務的なことも書いています。今後、団体づくりや居場所づくりを志す方の参考にしたいだけでしょう。

さらに平成30年7月の西日本豪雨という大きな災害以来、被災地である真備町で行っている活動の記録は、今後各地で災害が起きた時の「被災地での居場所づくり」の参考になると考えています。

気になるところを繰り返し読み、読んだついでに隣のページまで目に入るとというのが書籍の良いところです。ぜひ、一番気になる章から読み始めてください。そのついでに他の章も目に入り、気づけば保護者支援のマインド全体を受け止めている、そんな状態になってくれることを願っています。

倉敷オリジナルの保護者支援を全国へ発信！全国のお母さん・お父さんたちに「自分はひとりじゃない。仲間がいる。」と感じてもらいたい。

この本には、私たちの経験やノウハウをギュッと詰めて、情報を得るツールとしてだけでなく、「親の支援のテキスト」という役割を持た

せます。それを用いて、行政を中心に様々な支援組織を対象にした研修会を開催します。本の出版により今まで以上に活動の場が広がり、いままでは情報を届けられなかった人のもとに辿り着く道筋ができます。

また一般書籍として全国各地で手に取ってもらえるので、各地で同じような活動をしている人、これから活動を考えている人とのネットワーク構築のきっかけになります。このネットワークが実現すれば、色々な場所で一人で悩んでいる親や、その支援をしている人たちを勇気づけることができると考えています。

独りぼっちで悩む人をなくしたい。 私たちに力を貸してください。

このプロジェクトについて最後まで読んでくださってありがとうございます。倉敷という小さな町で行っている活動ではありますが、障がい児の育児で悩む人の気持ちは全国共通だと思っています。私たちの本の出版で、直接会えないような遠くにいる方にも私たちのエールの気持ちが伝わりますように。そして、保護者の支援について知る人が増えることで、障がい児の育児環境が少しでも温かいものになっていきますように。どうぞ私たちに力を貸してください。よろしくお願いいたします。

現金・郵便振替・クレジット決済 対応！

ご寄付のプランと特典

1) 1,000円プラン

お礼のお手紙

2) 3,000円プラン

お礼のお手紙、3月8日の保護者支援啓発フォーラムへご招待または活動報告書の送付

3) 5,000円プラン

出版する書籍1冊、3月8日の保護者支援啓発フォーラムへご招待または活動報告書の送付

4) 10,000円プラン

出版する書籍2冊、活動報告書の送付、書籍紹介HPへのお名前掲載



MOTION GALLERY
クラウドファンディング・プラットフォーム



クレジット決済はこちら
<https://motion-gallery.net/projects/hogosha-shien>

寄付金の使途について

2020年3月に出版する書籍の費用に当てさせていただきます。

想定されるリスクとチャレンジ

資金調達が達成されなかった場合は、別の収益事業の利益を本の出版費用にあて出版します。出版スケジュールが万が一遅れた場合には、出来上がり次第、ご支援していただいたみなさんに迅速に報告し、リターンの送付を行います。

プロジェクト実施団体

名称：認定NPO法人ベアレント・サポートすてっぷ
代表：理事長 安藤 希代子
設立：2012年4月1日

